

应试宝典
系列丛书

主审◎蔡全胜 主编◎于永梅

日语专业四、八级 高分大突破

大连外国语学院 组编

八级 [古典语法/文学与文化/阅读理解/翻译篇]

- ◆ 在原命题专家的全程指导下编写而成的一部权威经典题库
- ◆ 具有多年辅导经验的一线教师全力打造而成的一部应试宝典



■ 吉林大学出版社

应试宝典系列丛书

日语专业四、八级高分大突破

< 八级古典语法/文学与文化/阅读理解/翻译篇 >

主 审	蔡全胜
主 编	于永梅
副主编	崔 平

吉林大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日语专业四、八级高分大突破. 八级古典语法、文学
与文化、阅读理解、翻译篇/于永梅主编. —长春: 吉林大学
出版社, 2009. 3

(应试宝典系列丛书)

ISBN 978 - 7 - 5601 - 4225 - 8

I. 日… II. 于… III. 日语—高等学校—水平考试—自
学参考资料 IV. H360.42

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2009)第 037238 号

书 名: 应试宝典系列丛书

日语专业四、八级高分大突破: 八级古典语法/文学与文化/阅读理解/翻译篇

作 者: 于永梅 主编

责任编辑、责任校对: 孟亚黎

吉林大学出版社出版、发行

开本: 787 × 1092 毫米 1/16

印张: 13.25 字数 200 千字

ISBN 978 - 7 - 5601 - 4225 - 8

封面设计: 殷成年

石家庄海德印刷有限公司印刷

2009 年 4 月 第 1 版

2009 年 4 月 第 1 次印刷

定价: 25.00 元

版板所有 翻印必究

社址: 长春市明德路 421 号 邮编: 130021

发行部电话: 0431 - 88499826 订购电话: 0411 - 82303844

网址: <http://www.jlup.com.cn>

E-mail: jlup@mail.jlu.edu.cn

编委:(按汉语拼音排序)

蔡全胜 崔 平 韩晓萍 黄 健
罗米良 刘 艳 时 代

前 言

日语专业四、八级考试,是教育部为了检查各高校日语专业对教育部制定的《高等院校日语专业教学大纲》的执行情况,由教育部高等学校外语指导委员会日语组负责命题与实施的一项考试,是检查学生是否达到“大纲”规定的四、八级水平所要求达到的综合语言技能和交流能力。这项考试是评估教学质量,推动学校间日语教学交流的一种措施,已受到越来越多高等院校和日语学习者的关注。为了使广大考生顺利通过该项考试,我们组织编写了《日语专业四、八级高分大突破》系列丛书。该套丛书是由著名日语教育家、原《日语专业四、八级考试》命题专家蔡全胜教授全程指导并亲自担任主审,会集具有多年该项考前辅导经验的一线教师,根据《日语专业四级考试大纲》和《日语专业八级考试大纲》编写而成。目的是对考生进行系统、全面的训练与辅导,使之顺利地通过日语专业四、八级考试。

该册书由四部分组成:

第一部分古典语法篇:该篇在介绍古典语法基本内容的基础上,主要以历年真题和模拟题为主训练考生的实战能力。

第二部分文学与文化篇:首先介绍从上代到近代的日本文学重点内容,然后列举历年文学与文化部分真题,并参考真题的考试倾向编排了相应的模拟题。

第三部分阅读理解篇:首先分析阅读理解的解题技巧与基础,并附解说例。然后在熟悉历年真题的基础上通过大量模拟题进行实战训练。

第四部分翻译篇:历年日语专业八级考试的翻译部分虽只限于汉译日,但考试大纲要求翻译部分的测试形式为中译日或日译中,或两者兼而有之。因此,本篇内容以考试大纲要求的考试内容——我国报刊杂志上的论述文及一般文学作品为主,分别对不同文体的翻译技巧、翻译原则及注意事项等进行介绍,并通过例子进行实际翻译练习。

本书的特点是列举 2003 年日语专业八级考试开始以来至 2007 年的全部真题,使考生能够把握考试真题的命题特点以及解题对策,并提供符合考试大纲要求的模拟试题。因此,本书是一本既贯穿八级水平考试指导思想又融入了八级考试大纲精要的日语专业八级考试辅导教材。

本书在编写过程中,参阅了许多国内外相关资料,在此一并表示感谢。由于编者的经验、水平有限,难免有不足之处,敬请专家和读者指正。

编 者

2009 年 2 月

目 录

第一部分 古典语法

概述.....	1
真题(2003—2007 年)	1
模拟题.....	4

第二部分 文学与文化

概述.....	7
真题(2003—2007 年)	19
模拟题	21

第三部分 阅读理解

技巧与基础	30
真题(短篇)(2003—2007 年)	35
模拟题(短篇)	48
真题(长篇)(2003—2007 年)	67
模拟题(长篇)	82

第四部分 翻译

论述文.....	154
一般文学作品.....	170
散文.....	170
小说.....	184

参考答案.....	190
-----------	-----

附 表.....	195
-------------	-----

第一部分 古典语法

概 述

日语八级考试的语法项目中,有一项为日语古典语法部分。本书将对古典语法的基本内容进行归纳总结(请参见附表),并在此基础上列举历年的真题,并为加深印象后附模拟题,以助应试者快速掌握实际考试中的日语古典语法问题的知识。

真题(2003—2007 年)

◆ 2003 年

一、次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

降る雪は かつぞけぬらし あしひきの 山のたぎつ瀬 音まさるなり

1. この短歌の季節は次のどれか、一つ選びなさい。

- A. 春 B. 夏 C. 秋 D. 冬

2. この短歌は何句切れか、次から一つ選びなさい。

- A. 初句切れ B. 二句切れ C. 三句切れ D. 四句切れ

3. あしひきの山のたぎつ瀬 音まさるなりの口語訳として、最も適当なものを一つ選びなさい。

- A. 山川のあわだち流れる瀬の音が普段より大きく聞こえるようだ。
B. 山川のあわだち流れる瀬の音が普段より大きく聞こえるだろう。
C. 山川のあわだち流れる瀬の音が普段より多きい。
D. 山川のあわだち流れる瀬の音が普段より大きく聞こえる。

◆ 2004 年

一、次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

いつのまに 五月来ぬらむ あしひきの 山ほととぎす 今ぞ鳴くなる

1. この短歌の季節は次のどれか、一つ選びなさい。

- A. 春 B. 夏 C. 秋 D. 冬

2. この短歌は何句切れか、次から一つ選びなさい。

- A. 初句切れ B. 二句切れ C. 三句切れ D. 四句切れ

3. 今ぞ鳴くなるの口語訳として、最も適当なものを一つ選びなさい。
- | | |
|--------------|---------------|
| A. 今鳴いている | B. 今鳴いているだろう |
| C. たった今鳴いていた | D. たった今鳴いたようだ |

二、次の文の意味はなに、それぞれのA、B、C、Dから最も近いものを一つ選びなさい。

- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| 1. 花咲けり。 | A. 花が咲いた | B. 花が咲いている |
| | C. 花が咲くだろう | D. 花が咲こう |
| 2. 花咲けば。 | A. 花が咲けば | B. 花が咲いていたら |
| | C. 花が咲くので | D. 花が咲いているから |
| 3. 花散りにけり。 | A. 花が散る | B. 花が散るだろう |
| | C. 花が散っていた | D. 花が散ってしまった |
| 4. 花咲かなむ。 | A. 花が咲いてほしい | B. 花が咲くだろう |
| | C. 花が咲こう | D. 花が咲いているだろう |
| 5. 海静かなり。 | A. 海が静かであった | B. 海が静かである |
| | C. 海が静かでなかった | D. 海が静かでない |
| 6. 静かならざりし夜 | A. 静かであった夜 | B. 静かな夜 |
| | C. 静かでなかった夜 | D. 静かでない夜 |
| 7. 山に登りぬ。 | A. 山に登った | B. 山に登らない |
| | C. 山に登っていた | D. 山に登らなかった |
| 8. 滝水落ちたり。 | A. 滝の水が落ちる | B. 滝の水が落ちていた |
| | C. 滝の水が落ちた | D. 滝の水が落ちている |

◆ 2005 年

次の文の()に入る言葉はどれか、それぞれA、B、C、Dの中から最も適当なものを一つ選びなさい。

1. 「奢れる者久しからず、ただ春の夜の夢の如し」の下線部の「奢れる」の現代語訳は「栄華に()」だ。
- | | |
|---------|-------------|
| A. 奢れる | B. 奢っている |
| C. 奢られる | D. 奢ることができる |
2. 「伝へ承るこそ、心も詞も及ばれね」の下線部の「及ばれね」の現代語訳は()だ。
- | | |
|---------|------------|
| A. 及ばれた | B. 及ばれてしまう |
|---------|------------|

- A. そばにある高い木に止まった B. そばにある高い木に止らなかった
C. そばで鳴る高い木に止まった D. そばで鳴る高い木に止まらない
2. 「心を修めて道を行はむとなり」の現代語訳は()だ。
A. 精神を修養して、仏道を修行するためとなる
B. 精神を修養して、仏道を修行したためである
C. 精神を修養して、仏道を修行しようとするためである
D. 精神を修養して、仏道を修行しようとする事となる
3. 「人にまじるに及ばねば」、薪を取りて世を過ぐるほどに山へ行きぬ。の下線部の「人にまじるに及ばねば」の現代語訳は()だ。
A. 人との付き合いもできなければ B. 人との付き合いもできないので
C. 人との付き合いもできれば D. 人との付き合いもできるので
4. 「男はこの女をこそ得めと思ふ」の現代語訳は、()である。
A. 男はこの女をこそもらわないと思う
B. 男はこの女をこそもらいたいと思う
C. 男はこの女をこそもらいなさいと思う
D. 男はこの女をこそもらおうと思う
5. 「秋つ方、軀死ぬ。」の現代語訳は()である。
A. 秋の時、女の人が死んだ B. 秋のころ、女の人が死ぬかもしれない
C. 秋のころ、老女が死んだ D. 秋のころ、年とった人が死んでもいい

☞ 模 擬 題

一、次の俳句を読んで、後の問いに答えなさい。答えは次のABCDからもっとも適当なものを一つ選びなさい。

◆ 古池や蛙飛込む水の音

1. この俳句は誰の代表的な句ですか。
A. 小林一茶 B. 松尾芭蕉 C. 井原西鶴 D. 小野小町
2. カエルが水に飛込むと何をやぶったのですか。
A. 水 B. 池 C. 静寂 D. 井
3. この俳句の季節は次のどれですか。
A. 春 B. 夏 C. 秋 D. 冬

◆ やせ蛙負けるな一茶これにあり

4. この俳句は誰の代表的な句ですか。
A. 小林一茶 B. 松尾芭蕉 C. 井原西鶴 D. 小野小町
5. この俳句の季語は何ですか。
A. 蛙 B. 負ける C. やせ D. 一茶
6. この俳句の意味は次のどれに一番近いですか。
A. 痩せた弱々しい蛙よ、負けてしまうな、おれがここにいるぞ。

- B. 痩せた弱々しい蛙よ、また負けてしまったなあ、おれがここについても。
 C. 痩せた弱々しい蛙よ、負けてもいいよ、おれがここについているから。
 D. 痩せた弱々しい蛙よ、おれのように負けてしまって、仕方がないなあ。

◆ 名月や池をめぐりて夜もすがら

7. この俳句は誰の代表的な句ですか。

- A. 小林一茶 B. 松尾芭蕉 C. 井原西鶴 D. 小野小町

8. この俳句の季語は何ですか。

- A. 名月 B. 池 C. 夜 D. めぐり

9. 「夜もすがら」は何の意味ですか。

- A. 一晩中 B. 夜でも C. 夜ながら D. 夜なので

◆ 今もかもさきにほふふらむ橘の小島の崎の山吹の花

10. この歌の季節は次のどれですか。

- A. 春 B. 夏 C. 秋 D. 冬

11. 「さきにほふ」の意味は次のどれですか。

- A. 美しく咲く B. 咲いている花のにおい
 C. 先に咲いている D. 先に咲いている花

12. 「橘」の読み方はどれですか。

- A. たちばなな B. たちばな C. たちのばな D. たちのばなな

◆ 我が宿の池の藤波咲きにけり山ホトトギスいつか鳴かむ

13. この歌の季節は次のどれですか。

- A. 春 B. 夏 C. 秋 D. 冬

14. 「けり」の意味は次のどれですか。

- A. てしまう B. てある C. てしまった D. てあった

15. 「む」の意味は次のどれですか。

- A. ない B. だろう C. のだ D. なかろう

二、次の短歌を読んで、下の問いに答えなさい。

◆ 街をゆき子供の傍を通るとき蜜柑の香せり冬がまた来る

1. この短歌の句切れを次から選べ。

- A. 初句切れ B. 二句切れ C. 三句切れ D. 四句切れ

◆ 白鳥は哀しからずや空の青海のあをにも染まずただよふ

2. この短歌の句切れを次から選べ。

- A. 初句切れ B. 二句切れ C. 三句切れ D. 四句切れ

◆ やはらかに柳あをめる北上の岸边目に見ゆ泣けとごとくに

3. この短歌に用いられている表現技法を選べ。

- A. 反復法 B. 倒置法 C. 対句法 D. 体言止め

◆ ヒヤシンス薄紫に咲きにけりはじめて心顫(ふる)ひそめし日

4. この短歌に用いられている表現技法を選べ。

- A. 反復法 B. 倒置法 C. 対句法 D. 体言止め

◆ なにとなく君に待たるるこちして出でし花野の夕月夜かな

5. この短歌の作者を次から選べ。

- A. 正岡子規 B. 若山牧水 C. 与謝野晶子 D. 斎藤茂吉

三、次の俳句を読んで、下の問いに答えなさい。

◆ あをあをと空を残して蝶分れ

1. この俳句の季語はどれか。

- A. 空 B. 残す C. 蝶 D. 分れ

2. この俳句の季節はどれか。

- A. 春 B. 夏 C. 秋 D. 冬

◆ 柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺

3. この俳句の季語はどれか。

- A. 柿 B. 鐘 C. 鳴る D. 法隆寺

4. この俳句の季節はどれか。

- A. 春 B. 夏 C. 秋 D. 冬

◆ 万緑の中や吾子の齒生え初むる

5. この俳句の切れ字を選びなさい。

- A. の B. や C. え D. る

◆ 名月を取つてくれろと泣く子かな

6. この俳句の切れ字を選びなさい。

- A. を B. て C. と D. かな

第二分 文学与文化

◆ 考试大纲要求

文学与文化题中,文学题主要测试考生对日本近现代文学史和文学作品知识的掌握情况,文化侧重于测试考生对日本国情知识的了解程度,共 10 道题。

概 述

上代文学の必修ポイント

記載文学の第一として、史書というより文学として価値の高い『古事記』がある。和銅五年(七一二)、^{ひえだのあれ}稗田阿礼の^{すしゅう}誦習するところを^{おおのやすまろ}太安方侶が撰録し、^{きでん}紀伝体で編さんされた。この書に遅れること八年、養老四年(七二〇)に、いわゆる^{りっこくし}六国史の初めである『^{ほんしよき}日本書紀』が編集された。^{へんねん}編年体の歴史書で、編者は^{とねりしんのう}舎人親王とされている。この両書が宮廷内で編さんされたのに対し、和銅六年(七一三)に^{げんめい}元明天皇の命が下り、各地方で、その地誌や伝承をまとめたのが『^{ふうどき}風土記』である。

古代歌謡のうち、『古事記』『日本書紀』に収められた約一九〇首を、特に^{きき(ぎ)}「記紀歌謡」と呼ぶ。これらの歌謡を母胎として生じたものが和歌であり、当代の和歌を集大成したのが『^{まんよう}万葉集』である。

『万葉集』の編者の中心人物は^{おおとものやかもち}大伴家持と考えられ、成立は八世紀後半、現存する日本最古の歌集であるが^{ちよくせん}勅撰集ではない。二〇巻、約四五〇〇首から成り、^{ざうか}雑歌・^{そうもん}相聞・^{ほんか}挽歌の三大部立が認められる。歌体は短歌・長歌・^{せどうか}旋頭歌のほか^{ぶつそくせき}仏足石歌体などに分類される。四世紀以降、約四五〇年にわたる詠作年代を数え、作者も天皇から庶民に至るあらゆる階層に及ぶ。歌風は素朴・雄大・真実である。代表的歌人に、初期女流歌人の^{ぬかたのおおきみ}額田王、歌聖と称せられる叙情歌人^{かきのもとひとまろ}柿本人麻呂、叙景歌人^{やまべのあかひと}山部赤人、人生歌人^{やまのうえのおくら}山上憶良、伝説歌人^{むしまろ}高橋虫麻呂、そして編者に擬せられている集中随一の近代的歌人^{おおとものやかもち}大伴家持らがいる。民衆の歌としては、東国民謡的な^{あずまうた}東歌、九州防備のため東国

から徴発された人々による防人歌などがある。

『万葉集』と並ぶ叙情文学として、日本最古の漢詩集『懷風藻』がある。淡海三船らの編集といわれる。このほか、神に対する祈願・祝福の詞章である祝詞、天皇が臣下に宣り聞かせる宣命がある。また、伝承説話を収録した『日本書紀』(平安朝初期に成立)、特に氏族関係の伝承として注目すべきものに『高橋氏文』『古語拾遺』などがある。

中古文学の必修ポイント

◆ 漢文学隆盛(国風暗黒時代)

平安遷都以降、まず漢文学の隆盛となり、『倭雲集』『文華秀麗集』『経国集』の三勅撰漢詩集が相ついで編集された。また私選の詩文集にも価値あるものがあり、空海の『性霊集』、菅原道真の『菅家文草』などはその代表的なものである。

◆ 和歌の興隆(六歌仙、勅撰集、私家集)

平安初期のいわゆる国風暗黒時代に私的な文学として命脈を保ってきた和歌は、九世紀末ごろから、国風文化再認識の風潮の中で、しだいに公的な場にあらわれるようになり、興隆してきた。かな文字の普及、歌合の開催、さらには在原業平・小野小町・喜撰法師・僧正遍昭・文屋康秀・大伴黒主のいわゆる六歌仙の活躍などと相まって、やがて、日本最初の勅撰和歌集である『古今和歌集』が、延喜五年(九〇五)に、紀貫之・紀友則・凡河内躬恒・壬生忠岑によって撰進された。その後、梨壺の五人撰による『後撰和歌集』、花山院撰といわれる『拾遺和歌集』(ここまでを三代集という)から中世の『新古今和歌集』までの、いわゆる八大集が撰せられ、和歌全盛時代を現出した。また、私家集として、藤原俊成の『長秋詠藻』、西行の『山家集』など、多数の優れた作品が光彩を放っている。

◆ 物語(作り物語、歌物語)

平安初期の物語は、作り物語と歌物語とに大別される。前者の系統として日本最古の『竹取物語』が一〇世紀前後に登場、『宇津保物語』『落窪物語』と続き、後者の系統として、『伊勢物語』『大和物語』『平家物語』などが一〇世紀末までに生み出されている。この両系統の特質を受けつぎ、さらに和歌や日記の伝統を吸収しながら、壮麗な虚構の世界を築きあげたのが紫式部作の『源氏物語』で、一一世紀初めに成立した。

◆ 平安末期の物語

『源氏物語』以降、平安末期にかけて、『夜の寝覚』『浜松中納言物語』『狭衣物語』な

どさまざまな物語が作られたが、いずれも『源氏物語』の模倣の域を脱していない。『とりかへばや物語』にみられる退廃性・奇抜性は、まさに末期的特徴であろう。新しい傾向のものとしては、それぞれ趣向を異にした短編一〇作品を集めた『堤中納言物語』がある。

◆ 歴史物語

平安後期になると、物語の行きづまり打開のためと、過去の栄光回顧という歴史意識から、新たに「歴史物語」が誕生した。その領域を開いたのは『榮花物語』で、編年体で記されている。そのあとの『大鏡』は紀伝体が用いられ、単なる道長賛美に終わらず、政争の裏面史が描かれており、鋭い批判意識がこめられている点に価値がある。これにつぐ『今鏡』と、中世の『水鏡』『増鏡』とを合わせて「四鏡」という。

◆ 日記文学

紀實之の『土佐日記』は女性に仮託され、当時「女手」といわれたかな文で書かれている。日本最初の日記文学である。この領域は、藤原道綱の母の『蜻蛉日記』に引きつがれ、『和泉式部日記』『紫式部日記』、さらには菅原孝標の女の『更級日記』へと展開していく。

◆ 随筆

日記としての枠を超え、作者の鋭利・繊細な感覚が、自照性を保ちながら自在に発揮されたのが随筆文学で、清少納言の『枕草子』は、日本最初の代表的随筆作品である。

◆ 説話、歌謡

その他、説話文学として平安初期に集成された『日本霊異記』、一二世紀前半の『今昔物語集』、歌謡集として、藤原公任撰の『和漢朗詠集』、後白河法皇撰の『梁塵秘抄』などが平安文学史を飾っている。

中世文学の必修ポイント

◆ 和歌の発展(勅撰集、私家集、歌論)

鎌倉時代初期は、歌壇が未曾有の活気を呈し、史上最大規模の「千五百番歌合」なども行われ、これらを基盤として、藤原定家らを中心撰者とする勅撰第八代の『新古今和歌集』が撰進された。『新古今集』の代表的な歌人は、定家のほか西行・慈円・藤原良経・同俊成・式子内親王・藤原家隆・寂蓮・後鳥羽院などである。また、京文化にあ

こがれた三代将軍源実朝^{さねとも}の歌集『金槐^{きんかい}和歌集』は、万葉調の力強い表現に特色がある。

『新古今集』以降、歌壇活動は低下し、定家から為家^{なめいえ}に継がれた歌の家も、為家の死後はその子為氏^{なめうじ}(二条家)・為教^{なめのり}(京極家)・為相^{なめすけ}(冷泉家)の三家に分かれて対立した。勅撰集は、定家の撰んだ『新勅撰和歌集』以降、室町時代初期の『新続古今和歌集』まで十三集(十三代集)を数える。歌論には、定家の『近代秀歌』『毎月抄』、鴨長明^{かもろちようめい}の『無名抄』などがある。

◆ 連歌

連歌^{れんが}は鎌倉期から和歌の余技として愛好され、南北朝以降、二条良基^{よしもと}により文芸として大成された。最初の連歌撰集『菟玖波集』^{つくば}は、救済^{きうぜい}の協力を得て良基が編さんした。室町期には宗徹^{そうてい}・心敬^{しんけい}などが活躍し、続く宗祇^{そうぎ}は、『水無瀬三吟百韻』^{みなせさんぎんひやくいん}に関係し、『新撰菟玖波集』を撰んだ。俳諧の連歌は、連歌の制約から脱した気楽な余興として流行し、山崎宗鑑^{そうかん}の『犬築波集』^{いぬつくば}、荒木田守武^{あらきだもりたけ}の『守武千句』などが編さんされた。

◆ 物語(軍記物語、歴史物語、史論)

平安末期から鎌倉初期にかけて作られた物語文学は擬古物語といわれ、『源氏物語』などの模倣の域にとどまっていた。これに代わって、戦乱・変動の時代・人間を題材とした軍記物語・歴史物語が作られるようになった。保元^{ほうげん}の乱・平治^{へいじ}の乱に取材した『保元物語』『平治物語』、仏教的無常観を基調とした『平家物語』など、一三世紀半ばごろまでに相ついで原型が成立した。特に『平家物語』は、琵琶法師^{びわ}によって語りつがれた。文体は典型的和漢混交文である。『太平記』は南北朝争乱を題材とし、『平家物語』に次ぐ軍記物語の傑作である。その後の作品では、『義経記』^{ぎけいき}『曽我物語』^{そが}が注目される。

歴史物語は、前代に続き『水鏡』^{ますかがみ}『増鏡』が作られた。また激動の時代の反映として、当代には価値ある史論があり、慈円の『愚管抄』^{ぐかんしょう}(鎌倉初期)、北畠親房^{きたばなけちかふさ}の『神皇正統記』^{じんかうしやうとうき}(南北朝期)などが有名である。

◆ 説話

説話文学としては、庶民性豊か『宇治拾遺物語』^{じつく(きん)}『十訓抄』^{じっくせん}『古今著聞集』^{ここんちやうもん}、仏教的な『発心集』^{ほっしん}(鴨長明作)『沙石集』^{しゃせき}(無住^{むじゆう}作)などがあり、また、物語に代わって広く愛読された『御伽草子』^{おとぎぞうし}の数々が作られた。

◆ 日記・紀行

日記・紀行文学では、『^{けんれいもんいん うきょうのだいぶ}建礼門院右京大夫集』は宮廷文化思慕の情感を基調とした回想歌日記、他に女房日記の『^{なかつかさのいし}中務内侍日記』『^{べんのいし}弁内侍日記』などがあり、二条の『^いとはずがたり』は異色の作品である。『海道記』『東関紀行』は交通発達が生んだ紀行、『^{きよい}十六夜日記』(^{あぶに}阿仏尼作)中の紀行部分も注目される。前代、女性が書いた随筆は、中世には主として^{いんじゅ}隠者が書いた。鴨長明の『^{けんこう}方丈記』、兼好法師の『^{つれづれぐさ}徒然草』が代表的作品である。

◆ 能一謡曲一

室町時代初期、^{かんあみ}観阿弥・^{せあみ}世阿弥父子によって大成された「能」の詞章が「謡曲」で、幻想的王朝美さながらの作品が多く、庶民的な「狂言」とあわせて上演された。能楽論『^{ふうしかでん}風姿花伝』(^{さるがくだんご}花伝書)『^{しんがくだんご}申楽談義』は世阿弥の作である。また、室町後期に行われた「^{こうわか}幸若舞」の詞章を“舞の本”という。庶民的な「^{こうた}小歌」も流行し、小歌集『^{かんぎん}閑吟集』が編まれた。

近世文学の必修ポイント

◆ 仮名草子

近世初期に、かなを用いて、教訓・娯楽を目的として書かれた読み物が^{かなぞうし}仮名草子で、『^{ににんびくに}二人比丘尼』(^{しやうさん}鈴木正三)、『^{いそほ}翻訳伊曾保物語』『^{せいすいしやう}醒睡笑(安楽庵策伝)』『^{ちくさい}竹斎』(^{とみ}富山道治)や^{りやうい}浅井了意の『^{おとぎぼうこ}伽婢子』『^{うきよ}浮世物語』などがある。

◆ 浮世草子

真に近世的な小説の成立は、^{てん}天和二年(一六八二)刊の^{うきよぞうし}浮世草子——^{いはらさいかく}井原西鶴作『好色一代男』である。西鶴は以後、好色物の『好色五人女』『好色一代女』、武家物の『^{ぶだうでん}武道伝来記』『^{ぶかぎ}武家義理物語』、町人物の『^{にほんえいたいぐら}日本永代蔵』『^{せけんむねさんよう}世間胸算用』、雑話物の『^{さいかく}西鶴諸国ばなし』『^{よろず}万の文反古』などを書いた。西鶴没後の注目作は^{はちもんじや}八文字屋本の、^{えじまきせき}江島其磧作『^{むすこかなぎ}世間子息気質』『^{おやじかなぎ}浮世親仁形気』などで、^{かなぎ}気質物といわれた。

◆ 読本

読むのを主とした小説本が^{よみほん}読本で、^{かみがた}上方中心の前期読本時代には、^{つがていしやう}都賀庭鐘の『^{はなぶ}英草紙』、^{なけべあやたり}建部綾足の『^{うえだあきなり}西山物語』、^{うげつ}上田秋成の怪異短編集『^{はるさめ}雨月物語』『^{はるさめ}春雨物語』などがある。後期読本の中心は江戸で、^{さんとうきやうでん}山東京伝が基礎を築き、この京伝を越えたのが^{きよく}曲亭馬琴で、その代表作は『^{なんそうさとみ}南総里見八犬伝』『^{ちんせつゆみはりづき}椿説弓張月』である。